



蓬萊町だより

第十二号

平成元年7月31日
元者者蓬萊町
發行者蓬萊町
編集者文化会部

蓬萊町界限(その十九)

書生の宿・下宿屋(Ⅱ)

林 順 信

●北関東出身者の多い下宿屋

前回で紹介した本郷区の中の下宿屋にあって、多くの文化人が寄宿したことで知られる菊坂の菊富士ホテルや、現在も森川町に偉容を誇っている木造三階建ての本郷館などは、何れも岐阜県出身の人たちによって創業された下宿屋だったが、わが蓬萊町の場合は、茨城県や栃木県の北関東出身の経営者が目立った。

第一初音館の広瀬なか・第二初音館の大野貞子・第八初音館の平間とし、第一東洋館の間中好三(本郷区会議員をつとめた)は何れも茨城県出身の人たちで、初音館というチェーン下宿屋は、茨城県出身の山中という人が、逐次故郷の後輩に仕事の紹介と奨励にこれつとめたもので、昭和二十年三月十日の大空襲で蓬萊町が灰燼と帰すまでは、蓬萊町七番地に山中さんの御

宅があった。

木造三階建ての第三初音館の菊地藏吉は栃木県の出身だった。現在はフナバシKKの工場の位置、田中齒科医院の向かいの東北角地に、実に堂々たる木造三階建ての下宿屋として、この界限の天空を圧していた。

第三初音館のおやじさんは、なぜか「菊地のサイさん」と皆から呼ばれていた。昭和十年頃、私はこの「サイさん」に江戸角風の大きいのをこしらえてもらい、うなりまで叮嚀にこしらえてくれたのには、大喜びもし、またその技倆のすばらしさに驚嘆したことをおぼえている。

同じく蓬萊町六番地では、現在の恩田幸雄さんのお宅の西側の路地の突き当たり第八初音館があり、その手前左側に千歳館があった。道はアスファルト舗装などではなく、石炭ガラを敷きつめた泥の道であった。石炭ガラは蓬萊町内の草津湯から出た石炭ガラを応急に敷きつめていたと思う。

千歳館の梅干しおばあちゃんは、いつも白い割烹着を着て、我々悪童どもをにらめつけていたので、おっかないおばあさんという印象だった。千歳館の玄関わきには大きなゆずの木が、実をたくさんならしていたので、悪童どもが気になって仕様のないなりものだった。千歳館の真前に、比較的広いコンクリートのたたき場を持つ井戸があった。井戸水は比較的うまかった。

おかみさん連がよく井戸端会議をしていた。井戸端の水をよく蜂が飲みに来るので、何度か追いかけられたことを想い出す。

突き当たりのところを、先年私がふらふらしていたら、不審そうに町内の人から声をかけられたので、昔はここに第八初音館があって、共同の洗場があったなどと話をしたら、その時代のタイルが現在もあって、なぜあんなに広いタイルがあるのか、それでわかったと言われた。現在、郁文館の前の町内の横丁に、西側に頑丈な石塀の数メートルと、比較的広いコンクリートのたたきが残っている。あの石塀こそ、第一初音館の勝手口近くの生き残りであり、石のタタキは、第一初音館と、小池という家の間にあった井戸の名残りである。第一初音館の広瀬なかさんは、前歯に輪金をはめたやさしいおばさんだった。かなりきつい近眼鏡をかけた息子さんは、当時の鉄道省に勤めていた。時たま制服帽で帰宅するので、町内では人目についたものだった。あの激しい大空襲の戦火のなかで当時の石塀がよくもまあそのまま今日まで生き残っているのは、そばに水場という井戸があったせいであろうか。

七番地の第一東洋館そのものは、現在の拡巾された日本医大上から本郷通りに出る道路の南側中ほどにあった。戦前までなら、その東洋館手前の細い細い路地をカギの手に曲って、追分

(2) 町の方に出て行ける間道があった。現在でい

ばモード屋と写真店あたりだろうか。

十八番地の清光館、昇盛館と第二初音館は、真浄寺の西わきの長い一直線の横丁に、玄関を連ねていた。根津権現祭のとき、町内神輿はここをかつがれて渡御したものだ。

敷島館は二十五番地にあり、郁文館と恩田さんや倉田さんの間の細い横丁の突き当たりのドブ板を渡って玄関があった。

この細い横丁の左側には星野という、炭屋があった。星野炭屋には、そこそ童画に出て来そうな紅い頬べたのかわいらしい男の子と女の子がいた。おかみさんは、いつも手拭いを姉さんかぶりにして、かすりの着物を着ていた。

賄付で二十円前後の下宿代

◆当時の下宿屋の玄関は、現在ごくまれに東大前に残っているのと同じく、唐破風の屋根を持ち、軒先には、白い球形のガラスに蔽われた門灯があるのが特徴的だった。玄関の硝子戸には、大きな漢字で千歳館だとか豊島館だとか文字がすかし彫りで入れられていた。玄関には部屋の数だけ通し番号で下駄箱があり、玄関の片側は経営者のいる帳場の部屋がでんと構えていて、正面には、階上に登る階段があった。

蓬萊町の下宿屋では、東大生を中心に、中央・明治・日本医大の学生のほか、若い独身の月給取りが寄宿していた。部屋は四畳半か六畳が

主で、中には三畳などというのもあった。

第三初音館などの様に三階建ての下宿屋では七十もの部屋数があったが、普通の二階建てでは三十室前後が多かった。下宿屋は、大抵、中庭を中心に、周囲に廻廊式に部屋が続いていて、下宿代は、二十七、八円から二十円、十五円くらいと段階があった。下宿代は二階の方が一階より高く、南向きの部屋が最も高かった。

朝食と夕食の賄付でこの値段で、現在の様に礼敷金などはなかったが、大学出の初任給が五十円の時代にこの下宿料は決して安いとは言えなかったのだろう。

細かい下宿屋内部の生活については、次号に述べるつもりである。

町会活動の概要

平成元年4月から6月中旬まで

総務部

6月15日 「町会広報と普及について」文京区役所主催により研修会が行われました。

6月20日 このたび広告会社の協力を得まして無償により「町会掲示板」を6か所に設置致しました。

6月24日 平成元年度蓬萊町会総会、開催いたしました。

役員の一部交代について

南部 退任 翁 松夫氏 新任 里見正一氏
北部 退任 中川三郎氏 新任 吉田孝治氏

交通部

4月6日～4月15日 春の全国交通安全週間
当町会においても行事の趣旨に協力するため、この期間中には交通部及び婦人部が連日交代で参加し、街頭において歩行者並びに車両に対して交通安全の普及に努めました。

防火防災部

かねてより懸案になっておりました、防災用品倉庫の新設について次の箇所に設置されることが決まりました。

設置場所 向丘二丁目児童遊園地内

(7月中旬完成予定)

なお、同所内には防災情報を伝える放送塔も同時に設置されることになっております。

婦人部

4月29日 根津神社つつじ祭りの甘酒茶屋手伝い
5月30日 日本赤十字募金

このたびの募金につきましても町内皆様のご厚志によりまして次の金額を納付致しました。ご協力誠にありがとうございます。

一金 二三四、三三二円

本年は8月に恒例になりました「盆おどり」を行います。その節には多数ご参加くださいますようお願い致します。

計報

当町会にお住まいの方で、4月から7月中旬までの間に逝去された方々のお名前は左記のとおりでございます。

謹んでお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈りいたしております。

加藤ササエ様 赤木いち様 恩田むめ様

蓬萊句壇

元年六月二十六日

| | | |
|---|----------------|-----|
| 天 | 綿湿し種置きてみる今日芒種 | すえ |
| 地 | あじさいの雨にふくるる袋露地 | 連木 |
| 人 | 鉛空割れて日差してかける夏至 | 向雪 |
| | 岳友のこだま乗せくる青葉風 | 笑子 |
| | あら草に白十字為すしぶき草 | 千重 |
| | お六櫛ならべし店の七変化 | 婦蝶 |
| | 桜桃忌無頼の徒には染みきれず | 沛雨亭 |

蓬萊町古寺巡礼

その五

現在向丘二丁目交差点、昔の名で本郷肴町の十字路から南へ五十米程の左手に大きな石柱のある寺が、浄土宗十方寺である。

開山は円誉靈門上人で慶長九年（一六〇四）徳川家康より湯島に土地を拝領し源空寺を創建その後、根津に十方寺を建立し、寛文二年（一六六二）に現在地に移転したという。

江戸文化の華やいた文化文政年間の頃の寺の住職特止上人は余技に染焼を造り、その道では現在の陶器全集にも載る程の名人で、当時、文人墨客がこの寺に集まり南方流の茶道も当寺で行われたという。

一昨年急逝された第十九世薫誉良美上人も、僧侶としてはめずらしく長唄の三味線の名手です。この良美上人によって昭和三十一年に本堂が再建され続いて庫裡が新築された。当時としては斬新な設計で特に日本寺院ではめづらしくステンドグラスを取り入れたユニークな試みである。この寺の檀家には代々知識人が多く、江戸時代には、「昌平志」「武蔵志料」等を書き残した犬塚印南先生、現代ではノーベル賞の湯川秀樹博士の令兄で東大教授をしておられた小

川芳樹先生が有名である。

穴埋漫筆

『郁文館』校名の由来

本年二月に刊行された「郁文館学園百年史」に依れば、郁文館の命名は創立者、棚橋一郎

初代校長の父君、棚橋大作である。論語に「子曰く、周ハ二代に監ミテ、郁郁乎トシテ文ナル哉。吾は周に従ハン」とあり、孔子は周公の定めた礼楽制度、その文化の盛んなようす「郁郁」を讚美した。これより取ったのが「郁文」である。

編集委員会

平成元年度蓬萊町会総会を6月24日に開催し、昭和63年度決算並び平成元年度予算について審議を諮り、可決いたしましたので報告致します。なお、昭和63年度決算書並びに平成元年度予算書は次のページに掲載してございますので高覧下さい。

編集委員

小林 音吉、竹中 一馬、高橋 一郎、猪熊 良晃、池田 暉

昭和63年度 決算報告書

昭和63年4月1日～平成1年3月31日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|-----|--------|-----------|------------|
| 科目 | 金額 | 摘要 | 科目 | 金額 | 摘要 |
| 繰越金 | 5,1110 | 区より | 総会費 | 117,070 | 会場費及茶菓子代 |
| 町会費 | 1,280,600 | | 会議費 | 44,708 | 役員会々場費茶菓子代 |
| 補助金 | 167,430 | | 総務部費 | 35,6940 | 部会研究等に |
| 寄付金 | 25,000 | | 渉外費 | 11,3450 | 関係団体等 |
| 雑収入 | 345,651 | | 備品費 | 25,3800 | 維持及購入費 |
| 銀行利息 | 770 | | 事務費 | 100,640 | |
| | | | 通信・交通費 | 80,000 | |
| | | | 電気代 | 44,352 | 防犯灯、維持費含む |
| | | | 防火防災部 | 54,726 | 部の活動費 |
| | | | 防犯部 | 47,410 | 部の活動費 |
| | | | 交通部 | 28,190 | 部の活動費 |
| | | | 衛生部 | 4,000 | 部の活動費 |
| | | | 文化部 | 123,580 | 部の活動費 |
| | | | 婦人部 | 141,450 | 部の活動費 |
| | | | 青年部 | 200,000 | 部の活動費 |
| | | | 慶弔費 | 36,000 | |
| | | | 消耗品費 | 20,530 | |
| | | | 返繰越金 | 100,000 | 防災積立金へ |
| | | | 繰越金 | 3,721 | |
| 合計 | 1,870,567 | | 合計 | 1,870,567 | |

平成元年6月24日

収支決算上記の通り報告します。

上記の決算相違なき事を証明します。

防災積立金¥1,107,713.-（平成元年6月24日現在高）

町会長 高島正義 ㊟

会計 川西正造 ㊟

会計監査 須藤正四郎 ㊟

平成元年度 予算書

平成1年4月1日～平成2年3月31日

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|-------|--------|-----------|----------------|
| 科目 | 金額 | 摘要 | 科目 | 金額 | 摘要 |
| 繰越金 | 3,721 | 前年度より | 総会費 | 150,000 | 会場費及茶菓子代 |
| 町会費 | 1,700,000 | (区より) | 会議費 | 80,000 | 役員会々場費茶菓子代 |
| 補助金 | 167,430 | | 総務部費 | 35,000 | 部会及研究等に |
| 雑収入 | 160,000 | | 渉外費 | 20,000 | 関係団体等 |
| 利 | 700 | 銀行 | 備品費 | 6,000 | 維持・購入費 |
| | | | 事務費 | 100,000 | |
| | | | 通信・交通費 | 80,000 | |
| | | | 電気代 | 60,000 | 防犯灯維持費含む |
| | | | 防火防災部 | 60,000 | 訓練費他 |
| | | | 防犯部 | 60,000 | 夜警等に |
| | | | 交通部 | 8,000 | 安全運動費他 |
| | | | 衛生部 | 100,000 | |
| | | | 文化部 | 180,000 | 蓬萊町だより、成人・新入学祝 |
| | | | 婦人部 | 200,000 | 敬老費他 |
| | | | 青年部 | 230,000 | 部費 |
| | | | 慶弔費 | 39,000 | |
| | | | 消耗品費 | 30,000 | |
| | | | 予備 | 62,851 | |
| | | | 返繰越金 | | 防災積立金へ |
| 合計 | 2,031,851 | | 合計 | 2,031,851 | |

町会各位 殿

平成1年6月

蓬萊町会